ミッション(使命)		●全ての子ども学びを保障する。 ●全ての子ども命を守る。									
ビジョン(達成すべき姿)		●自分が好きで自分を大切に子ども ●命を大切に子ども									
学校教育目標		●人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する。									
	中期経営目標	何ができるようになるか(アンケート短期目標値)	何を学ぶか(資質・能力)	どのように学ぶか実施するか(手立て)	7月末肯定率	12月末肯定率	評価	課題	改善方策	学校関係者評価	
めざす児童像	思いやりのある子ども	●自分の好きなどところを見つけることができる。(100%) ●友だちのよいところを見つけることができる。(100%)	自己理解力 他者理解力	●「やくそくノート」の活用を図る。 ●道徳科において「相互理解・寛容」を重点化する。	児 76%	児	A	●「自分から学ぶ子ども」における「自主学習に取り組むことができる」項目の肯定率が全体的に低い。自主学習への取り組み方が分からなかったりすること、保護者が子どもの取り組みを把握する機会がなかったりすることが考えられる。 ●「自分から学ぶ子ども」における「友だちと学び合うことができる」項目の教職員評価の肯定率が低い。これは、具体的な手立てについての教職員の研修の場が必要と考える。 ●「自分から学ぶ子ども」における「自主学習に取り組むことができる。」項目の教師肯定率が低い。これは、具体的な指導・支援が必要と考える。	【いつ】 2学期に 【だれが】 学習指導主任が 【どこで】 【何を】 各学年の児童が取り組んでいる自主学習の例を 【どうする】 家庭に通知する。その際、家庭学習ノートは、必ず家の人に採点してもらったり、サインしてもらったりして、取り組みを確認するようお願いをする。		
					保 91%	保					
					教 94%	教					
					児 92%	児					
					保 94%	保					
					教 94%	教					
	自分から学ぶ子ども	●友だちと学び合うことができる。(90%) ●自主学習に取り組むことができる。(85%)	探究心	●授業ごとに振り返りをして記録に残す。 ●家庭と連携し、家庭学習を充実させる。	児 92%	児	B				
					保 95%	保					
					教 75%	教					
					児 88%	児					
					保 83%	保					
					教 75%	教					
元気な子ども	●進んで楽しく体を動かすことができる。(90%) ●健康な生活習慣を意識して生活することができる。(90%)	自立自律力 自己管理力	●体育の充実、共遊の活用を図る。 ●養護教諭、栄養教諭との授業を充実する。	児 93%	児	A					
				保 91%	保						
				教 94%	教						
				児 93%	児						
				保 85%	保						
				教 94%	教						

ミッション(使命)		●全ての子ども学びを保障する。 ●全ての子ども命を守る。									
ビジョン(達成すべき姿)		●自分が好きで自分を大切に子ども ●命を大切に子ども									
学校教育目標		●人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する。									
	中期経営目標	何ができるようになるか(アンケート短期目標値)	何を学ぶか(資質・能力)	どのように学ぶか実施するか(手立て)	7月末肯定率	12月末肯定率	評価	課題	改善方策	学校関係者評価	
めざす学校像	安心できる学校	●誰かに相談することができる。(80%) ●学校は楽しいと感じることができる。(100%)	行動力	●学期ごとに教育相談を実施し、記録を残す。 ●Q-Uを実施し、その結果を学級経営に生かす。	児 86%	児	A	●「安心できる学校」における「誰かに相談することができる」項目の児童・保護者の肯定率が低い。 ●「安心できる学校」における「誰かに相談することができる」項目の児童のこう定率が、目標値に達成しているが、少し低めである。学校休業中の期間により、担任との担任とふれあう時間が不足したと考える。 ●「満足できる学校」における「授業がわかる、できる。」項目において児童の肯定率は 88%であり 低い数値ではないがさらに肯定率があがる指導が必要であると考える。	【いつ】 2学期から 【だれが】 担任が 【何を】 悩みがなくて相談していない場合も考えられるので、アンケートを取る際に、「悩みがない」「悩みがあるけど相談できない」を 【どうする】 分ける。その上で、教育相談期間に、児童は相談相手を選択できるように希望を取り、担任以外にも相談しやすい場を設定する。教育相談期間には、ロング昼休みを増やし、時間を確保する。 【いつ】 2学期(11月) 【だれが】 担任が 【どこで】 児童と1対1で話す場で(教育相談) 【何を】 児童理解を 【どうする】 深める。		
					保 87%	保					
					教 100%	教					
					児 93%	児					
					保 91%	保					
					教 100%	教					
	満足できる学校	●授業がわかる、できる。(80%) ●成長を感じることができる。(90%)	気づく力	●学期ごとにアンケートを実施する。 ●学期ごとに自分の成長を振り返る時間を確保する。	児 88%	児	A				
					保 87%	保					
					教 94%	教					
					児 90%	児					
					保 93%	保					
					教 94%	教					
地域とともにある学校	●連携した教育活動ができる。(90%) ●責任を分担し活動することができる。(80%)	コミュニケーション力	●連携予定の教育活動を教育課程に盛り込む。 ●学校、家庭、地域の連携内容を整理する。	児 95%	児	A					
				保 90%	保						
				教 94%	教						
				児 93%	児						
				保 90%	保						
				教 100%	教						

ミッション(使命)		●全ての子どもの学びを保障する。 ●全ての子どもの命を守る。														
ビジョン(達成すべき姿)		●自分が好きで自分を大切に子ども ●命を大切に子ども														
学校教育目標		●人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する。														
	中期経営目標	何ができるようになるか(アンケート短期目標値)	何を学ぶか(資質・能力)	どのように学ぶか実施するか(手立て)	7月末肯定率	12月末肯定率	評価	課題	改善方策	学校関係者評価						
めざす職員像	教育愛のある職員	●子どものよさを認め、伸ばすことができる。(90%)	見取る力	●一人一人のよさを記録し、学級だより等に掲載する。 ●個人の記録等へこまめに記録する。	児 94%	児	A	●「教育愛のある職員」における「子どもの困り感に気づくことができる」項目で、保護者・教職員の肯定感が低い。児童の肯定率が高いことから、子どもの様子が 家庭に伝わっていない ことが考えられる。 ●「教育愛のある職員」における「子どものよさを認め、伸ばすことができる」項目の保護者肯定率が少し低い。これは 情報の共有が弱かった と考える。	【いつ】 2学期から 【だれが】 担任や担当者 【どこで】 学年だよりや学校だよりで 【何を】 子どもが楽しく安心して生活している様子を 【どうする】 伝えていく。	【いつ】 2学期 【だれが】 担任が 【どこで】 朝の会や帰りの会で 【何を】 クラスの 友だちによさを見つけてもらう ような活動を 【どうする】 取り入れる 。 保護者にも一言書いてもらう。						
					保 89%	保										
		●子どもの困り感に気づくことができる。(90%)			児 92%	児										
					保 84%	保										
		●相談すること、相談にのることができる。(100%)			包容力	●個別の行事計画書を作成する前に話し合う。 ●教育活動後に反省を行い、次年度の計画を立てる。						児 93%	児	A	●「自分から学ぶ職員」における、「先を見通した教育活動の研究や準備をすることができる。」の項目では、教員肯定率が低い。これは 具体的な改善 が必要と考える。	【いつ】 2学期 【だれが】 各教職員が 【何を】 自分の得意なものや自分の研究・研修テーマを 【どうする】 具体的に持ち、そのテーマの研究や研修を 進める 。 主的に学びを深める 計画を立てる 。 校務分掌や担当教科主任との関連も含めて 行う 。 更に自分の学びたいことに対して学びを深めることで、「自分から学ぶ」目標にせまれると考える。
												保 90%	保			
	●他の意見考えを取り入れることができる。(90%)	児 94%	児													
		保 91%	保													
	自分から学ぶ職員	研究力	●1ヶ月分の予定(週案など)を作成する。 ●板書計画、環境整備計画を作成する。	児 97%			児	A								
				保 97%			保									
				●先を見通した教育活動の研究や準備をすることができる。(90%)	教 81%	教										
				●板書や掲示物、整理整頓を工夫することができる。(80%)	児 97%	児										
保 96%					保											
教 94%				教												

ミッション(使命)		●全ての子どもの学びを保障する。 ●全ての子どもの命を守る。									
ビジョン(達成すべき姿)		●自分が好きで自分を大切に子ども ●命を大切に子ども									
学校教育目標		●人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する。									
	中期経営目標	何ができるようになるか(アンケート短期目標値)	何を学ぶか(資質・能力)	どのように学ぶか実施するか(手立て)	7月末肯定率	12月末肯定率	評価	課題	改善方策	学校関係者評価	
めざす授業像	主体的な授業	●めあてに対する振り返りを行うことができる。(100%) ●ゴールを理解することができる。(90%)	見通す力	●めあてと振り返りを必ず記入する ●毎時間、学習過程を掲示する。(見える化)	児 94%	児	B	●「深い学びのある授業」の「思考・判断を表現することができる」項目の肯定率が全体的に低い。特に、教職員が低く1学期は、感染症への対応で、授業で考えをまとめたり発表したりする時間が 十分とれなかった と考えられる。 ●「深い学びのある授業」における「思考・判断を表現することができる」項目の教職員の肯定率が低い。これは、教職員が持っている課題を共有できておらず、 具体的な研修が不十分 ことが考えられる。	【いつ】 2学期から 【だれが】 授業者が 【どこで】 授業の中で 【何を】 子どもの考えを 【どうする】 まとめる時間を 意図的に取り入れる ようにする。 【いつ】 2学期 【だれが】 学習指導主任が 【どこで】 現職教育で 【何を】 教職員がどんな課題を持っているのかを 【どうする】 把握し 、そのための研修資料を用意し、実態に応じた研修をする。		
					保 79%	保					
					教 93%	教					
					児 96%	児					
					保 79%	保					
					教 93%	教					
	対話的な授業	●友だちの意見を聴くことができる。(80%) ●分からないことを訊くことができる。(80%)	コミュニケーション力	●「話の聴き方」を配付し具体的な指導と支援をする。 ●「友だちへの訊き方」を配付し具体的な指導と支援をする。	児 97%	児	B	●「深い学びのある授業」における「思考・判断を表現することができる。」項目の教師肯定率が低い。これは、 具体的な改善 が必要である。	【いつ】 2学期 【だれが】 授業者が 【何を】 「ききかたレベルアップカード」を 【どうする】 意識的に活用していく。		
					保 94%	保					
					教 88%	教					
					児 91%	児					
					保 81%	保					
					教 81%	教					
深い学びのある授業	●思考・判断を表現することができる。(80%) ●学びを広げることができる。(80%)	応用力	●毎時間、自分の考えを発表する時間を設定する。 ●「振り返り」に更に学びたい内容を記入させる。	児 83%	児	B		【いつ】 次回の学校評価までに、 【だれが】 管理職が 【何を】 アンケートの項目を 【どうする】 改善する。 教師の肯定率を上げるため(上がるかは未知数であるが)に具体的な行為で判断できるようにアンケートの 判断材料を明確にする 。思考はみえないので、どのように「見える化」するとよいか決める。			
				保 83%	保						
				教 63%	教						
				児 89%	児						
				保 86%	保						
				教 88%	教						

ミッション(使命)		●全ての子ども学びを保障する。 ●全ての子ども命を守る。													
ビジョン(達成すべき姿)		●自分が好きで自分を大切に子ども ●命を大切に子ども													
学校教育目標		●人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する。													
	何ができるようになるか (アンケート短期目標値)	何を学ぶか (資質・能力)	どのように学ぶか か実施するか (手立て)	7月末 肯定率	12月末 肯定率	評価	課題	改善方策	学校関係者評価						
その他	●英語の時間に学んだことを使おうとすることができる。(100%)			児 78%	児	B	●「学校は清掃が行きとどき、快適である」項目の保護者肯定率が低い。 ●「学校は清掃が行きとどき、快適である」項目が低いこれは掃除の時間がなかった事によるものと考える。 ●「学校は清掃が行きとどき、快適である。」の項目の保護者肯定率が低い。これは、具体的な改善が必要である。	【いつ】2学期 毎週水曜日【だれが】清掃ボランティアが【どこで】トイレを中心に【何を】児童と掃除を【どうする】してもらおう。(保護者に、児童は一生懸命掃除をしていることが伝わり、児童も親の目があるので意識が高まる)5時間目に、引き続き行き届かないところを掃除してもらおう。一斉下校の日にボランティアに来てもらうことで、お迎えの保護者が協力してくれるのではないか。)							
	●道徳の授業で友達の意見を聞いたり、自分との関わりを考えたりすることができる。(100%)			児 92%	児					A	【いつ】2学期から【だれが】係が【どこで】掃除の時間で【何を】縦割り清掃ができるように計画を【どうする】作成し、実施する。それに伴い、清掃用具整備する。				
	●安全に生活して交通ルールを守ることができる。(100%)			児 98%	児							A	【いつ】2学期以降【だれが】管理職が【どこで】学校だよりで【何を】学校全体で保護者・にも学校の現状(学校施設の老朽化や働き方改形の一環))を【どうする】知って頂く機会を設ける。		
	●学校は情報を積極的に発信・提供している。(90%)			保 92%	保	A								【いつ】次のアンケート調査で【だれが】管理職が【どこで】アンケート用紙の説明リード文で【何を】アンケート項目の「清掃が行きとどき、快適である」の基準を【どうする】明確にする。【何を】文言(快適である)を【どうする】省く。	
	●学校は清掃が行きとどき、快適である。(90%)			保 80%	保					B					【いつ】2学期以降【だれが】管理職が【どこで】保護者通知で【何を】全保通者が、年に1度は、学校清掃に関わって頂く内容や教員も保護者も放課後に清掃することや教師は放課後に消毒や清掃を行っていることなどを【どうする】お知らせする。
	●教職員は、保護者に対して誠意をもって接している。			保 92%	保							A			
	●職員全員が参加して教育課程を編成している。			教 94%	教	A									
	●特別支援教育について情報を共有し、充実が図られている。			教 100%	教					A					